

12
月号

第407号

いっしん

平成30年(2018年)

善し悪しは
神ぞ知ります
人はただ
己がふむべき
道なたがえそ
甘木親教会
初代教会長
安武松太郎師神教

発行：金光教加治木教会 〒899-5213 鹿児島県始良市

加治木町朝日町130発行責任者：矢野文枝 TEL 0995-62-2895 /FAX 020-4665-5653

Mアドレス konko.m.kajiki@ksj.biglobe.ne.jp (HP)http://kajikikon.konjiki.jp/ 《HPはカラーです》

甘木親教会 布教115年 記念大祭 平成31年 10月26日・27日
加治木教会 矢野政美大人20年祭・矢野サダ子大刀自5年祭 平成31年2月10日



加治木教会 生神金光大神御大祭

仕えられる

秋も深まりゆく十一月四日(日)、加治木教会では生神金光大神御大祭が仕えられました。

前日から、掃除・玄關幕やお広前の小旗張り、お直会のお弁当の下ごしらえなどの御用が、和気あいあいとした雰囲気の中に進められました。当日は、隣接教会の先生方もご参列になられ、麗しくご祭典が仕えられました。

立教神伝奉読・前講は人吉教会長安武光太郎先生で、本講は多良木教会長 梅木博光先生でした。

梅木博光先生は、ご自身のご体験を通し御用のあり方や神様のお計らいの尊さについてお話しになりました。

また、ご教話の最後に、梅木先生が現在地域自治会のお世話をされる中で勉強された、高齢者のための健康体操を紹介され、参拝者一同和やかに、頭も体も働かせる体操をさせていただきますました。

加治木教会生神金光大神御大祭…P1～3
遺稿 (故福山悦子氏) …P7～8

「女性の集い」講話…P4～6
教会行事…P10
お知らせ…P9

加治木教会 生神金光大神御大祭フォト



ご祭典前のお直会準備 11月4日

前日の御用奉仕 11月3日



ご祭典が始まる

ご祭典開始前の御祈念

祭主祭詞奏上



天地附奉体

取次唱詞奉唱

カメラマン担当者は、来春 2月10日の、式年祭時の
写真係御用の撮影練習となりました。



玉串奉奠のようす、信徒総代、参拝協会代表、青年会、
婦人会、信徒会、青年会、若婦人会、少年少女会、奉迎委員と…

少年少女会の玉串奉奠はお母さんやお姉ちゃんと一緒に！



立教神伝奉読・前講は人吉教会長 安武光太郎先生
本講は多良木教会長梅木博光先生

奉迎委員玉串奉奠

お直会

梅木博光先生ご指導のもと健康体操！



皆で片付けの御用を

教会長あいさつ

鹿児島地方教会連合会 主催
第二十三回 九月九日

女性の集い

講師

日田教会(大分県)
田辺徳子氏

全国信徒会の常任委員
南九州教区信徒会役員
大分県北部連合会役員
「女性ネットワーク」代表
日田教会 輔教

講題 「私と金光教」

①

▼お道のお役に▲

今回お話をさせていただいて、記憶をたどってみますと、どれほどたくさんのおかげを頂いてきたかわかりません。

父に「勘当する」と言われて、反対されてまでも結婚したことも、今となつては神様がずーっと先のことを見通されてのお計らいだったと思います。

同じ日田で、教会の近くに住み、弟(白田教会員)夫婦も忙しいので、両親の病院行きやお買い物とか、近くにいますので電話をかけてきます。

私が教会に嫁いでいたら両親の面



いております。

側を看ることはできませんでしたが、近くにいますのでお役に立たせていただき有難いことに思わせていただ

教会長は「徳子ちゃん輔教になつてくれ」と言い「そんなの私はイヤ」と言い続けていましたが、平成二十一年に急に「私は教師にならせていただきたい」という思いになりましたが、田辺の家の両親もいるので学院に行くために一年間家を空けるわけにはいきません「ならば輔教にならせていただこう」と思い、すぐ教会長にお届けをしましたら「そうか、やっとその気になってくれたか」という感じで、教会長がずっと願っていたかもしれません。

現在は、全国信徒会の常任委員、南九州教区信徒会の役員、大分県北部連合会の役員、「女性ネットワーク」代表などの御用にお使いいただいております。

「信心は女から」とか「女は家の家者じゃ」と教祖様がおっしゃってあるように、信奉者の半分以上である女性ですが、いろんなことに関わっているのは多くが男性です、もっと女性が前に出て金光教を活性化させて行かなければならないと思います。

「女性ネットワーク」の願いはそういうところであり、鹿児島からも「女性ネットワーク」に名前を連ねていただきたいと思います。

日田教会では、輔教は十名くらいで、元日祭とか月例祭や霊祭で祭員として、二人ずつ当番制で参列させていただいております。

私は平成二十一年に金光様からご任命を頂きまして、始めて教会の月例祭に祭員で御用をさせていただきました時、その時はまだ父も元気で祭主の御用をさせていただいておりましたが、霊様の方に転座しますと、

なぜか涙がこぼれてしょうがなくなりました。

学院にも行っていない私がお装束を付けて祭員の御用ができていることを、絶対に初代は喜んでいてくれていると思ひ涙を流している時、父をパッと見ますと、父も一生懸命涙を拭いていたので、輔教にならせていただいていたほんとに良かったなと思わせていただきました。

▼あれもこれもおかげ▲

あれほど嫌いだっただ金光教でしたが、今はなくてはならない空気みたいな存在です。

金光教がなかったら私はどうなっていたらどうかと、ほんとにそう思わせていただいております。

「信心するものが、喜ばない、つらい顔をして日を過ごしてはならない。天地の親神を信心するのであるから、天地のような広い心にならなければならぬ。」(天地は語る一一二)

「信心していれば、目に見えるおかげより目に見えないおかげが多い。知ったおかげより知らないおかげを



そうならば本当の信者である。「津川治雄の伝え

とのみ教えの通り、その時はどうしても納得がいけないことでも、後になって「あーあれはおかげであつた」と思えることがいろいろありました。多分皆さんもおありのことだと思います。

今は三人の息子も、それぞれに独立立ちをしてお嫁さんもお縁を頂き子どもを授かり、三人とも日田に住み、兄弟仲良く私たち親を支えてくれ、幸せな毎日を暮らしております。三人の子どもたち家族は、今でも教会にお参りし、御用もしてくれております。

同居しています次男の、一才二ヶ月の双子の孫も、保育園に行く前は小さい手でパチパチと御神前に手を合わせて深々と頭を下げて毎日行っ

受けることが多い。後で考えてみてはじめて、あれもおかげであった、これもおかげであつたということがわかるようになる。

ております。

しかし、信心の継承はまだまだ確かなものではない気がしますので、信心の継承を毎日祈りながら、是非とも「家族勢信心」のおかげを頂いて信心の継承を確たるものにして行きたいと思っております。

これからもいろいろな難儀に会うことですが、神様を杖に、神様とともに、生かされ祈られ守られ、感謝の心を持ち、お礼と喜びの御用にお使い頂きたいと願っております。本日はお話しのお役にございました。だき有難うございました。



▼全体懇談▼

●お話しで引用されたみ教えをもう一度お願いします。

「信心する者が、喜ばない、つらい顔をして日を過ごしてはならない。天地の親神を信心するのであるから、天地のような広い心にならなければならない。」(天地は語る 一一一)

「信心するものが、喜ばない、つらい顔をして日を過ごしてはならない。天地の親神を信心するのであるから、天地のような広い心にならなければならない。」(天地は語る 一一一)

●どういう心で乗り越えられたのですか？

どうしようもないことがある、後は神様が良いようにして下さいと思ひ、悩まない、教会に走る、神様とともに乗り越えてきました。

お風呂に入れば涙というふうなことがあり、乗り越えてきました。

●改式については？

義母の実家は藤田で、今も家の中に藤田の家の仏壇がありますので、お寺にもお掃除など今も行っております。

長男は、お祖父ちゃん子で、小学校四年生の頃「お祖父ちゃんが金光教ならばずっと見てやるバイ」と、するとお祖父ちゃんが「そんならどうしようか」と改式する「じい」。

主人は、結婚してから、子どもたちが少年少女会でお参りするときに一緒に参拝するようにになり、全国大会参拝時のマイクロバス運転の大型免許取得を父から頼まれ、取得し、毎年全国大会に参拝するようになりました。また、主人が青年会の会長に。

●信心の継承については？

次男が専門学校の時、ニューヨークに行つてデザイナーの勉強をしたいと言いだしたのですが、中学校の頃は英語がとてダメでした。そのため、ホノルル教会で叔父が御用しているの、ハワイ大学に行くことになりました。

そのハワイ大学在学中に、スピーチコンテストで優勝することがありました。

次男は、ホノルル教会 芳野先生の日常生活を見て変わって行きました。

叔父は「賢治君を後継者にくれんね」と、次男は「ぼくは二年間、まだしたいことがある」と、日田に帰ってきて「キフウエア」というメーカーを立ち上げ、スポーツウエアなどを扱う商売をしています。

長男の嫁は、市役所に勤めているのでちょっと考えが違います。商売というのはわかっていません。教えは良いと思つているがなかなか信心するところまで踏み込めないようです。しかし、子



どもの「とわ」には「神様を拝まない」と言ってくれています。

三男の娘「ミチエ」は福岡から日田に引越し小学校で言葉の違いで、悩み、学校で御神米を頂く経験をし、家族を驚かせたことがありました。

●信心の継承は自然とは伝わらない、躰連れて参ることが大切だと思います。

小さい頃から教えてあげなければならぬと思います。

同居している双子の孫とも、家の神様と一緒に拜んでいます。大きくなればお参りするだろうとは思っています。

●妹は、岩清水教会の次男さんに嫁ぎ、その夫は勤め人で、最初妹がお参りして典楽の御用もしていると「お参りしないでいい」と言っていたのですが、今は一緒に参りできるようにおかげを頂いています。

●「女性ネットワーク」

代表、私は三人目、二年前市会議員の選挙に落選して、代表の御用も頼まれるようになり、いろんな神様の御用を頂きました。

「女性ネットワーク」の委員は、南九州は私だけ、九州支部を作りたい。九州から盛り上げて行きたいと思ひます。

遺稿

故福山悦子氏は、信徒萬代孝子氏の実母で、孝子氏の姉は現宮之城教会長夫人。

矢野政美大人二十年祭を来年(平成三十一年)二月にお仕えするにあたり、矢野政美大人をはじめ共に信心を進めた方々の遺稿を掲載し、当時の信心姿勢に触れて、改めて頂き直し、お慰びさせて頂いた。こうとするものであります。

信心発表 故福山悦子氏

(昭和四十年十月十七日 鹿児島県信奉者大会)

私は小学校四年生の頃、ご神縁を頂いたのですが、ふとしたことで一家は信心を落してしまっただけでございます。それから十年間というものは不幸の連続でございました。

昭和十七年の二月、一番上の兄が腹膜炎で二十九才の若さで亡くなり、同じ年の七月には、三番目の兄が結核で二十四才で他界してしまいました。また二十年八月には戦災で家は焼失してしまいました。

そして翌二十一年六月には私が小学校に奉職中、結核に罹っていることがわかり、一年間家庭療養の後、二十二年六月には指宿療養所に入所

させて頂いたものでございます。

その頃は今と違って、何もかも全てが不足致していましたので、病勢は日一日と悪化して行くばかりでござ



福山悦子氏

いました。

やがて療養所の先生から「母を呼ぶように」と言われまして、

病友に頼んで手紙を出していただきましたところ、母から「飛んで行きたいが、こちらも二男正徳が肋膜炎で高熱が続いて重態だから行かれない、身体を二つに分けても思うがどうにもならない、今しばらく待ってくれ」との返事がまいりました。私も泣くにも泣けない思いが致しました。まことに相ついで二人の兄が亡くなり、今また二兄と私が死線にさまよっております。

静かに目を閉じれば、自分のお骨を納めた白木の箱がまぶたに浮んでまいります。これが最後かと思いつつも、何とか助かりたい、生きたいという願いが切なく起きてまいります。

す。

金光様のみ教えに

「此の方が天地金乃神よりおかげを受けたことを話にして聞かすのぞ、疑うて聞かぬ者は是非に及ばず、可愛いものじゃ、また時を待っておかげを受けるがよし」と御仰せになつてありますように、神様はじっとその時機を待ってあったと思わせていただきます。

栗野の藤崎と申します従兄からは、「もう一ぺん信心をさせて頂かねば川畑の家はつぶれてしまう」と励ましの手紙と、歌子と申します従妹からは「貴女に代ってお参りをさせてくださいいております。御神米を同封致しますからしっかりとおすがりしておかけ頂いて下さい」と、甘木教会発行の「真愛」を添えて切々たる手紙がまいりました。

その時の私の病状は、肋膜炎に水がたまり高熱を出しまして、苦しみの中におぼれる者わらをもつかむ思いでありましたので、一心におすがりさせて頂いた。大きく気持ちにならせていただきました。

そして従兄妹を通してお取次を願

ったのでございます。

それからは枕辺に毎朝御神米を置かせていただき、水の御初穂を病友に供えていただき、「金光様！金光様！」と一心におすがり申し上げ「これからは信心をさせていただきますからよろしくお願い申し上げます。」とお詫びしつつ一筋におすがりさせていただきますました。

従兄妹等から手紙を頂きました三日目より、段々と熱が下らせていただき、病状が好転いたしました。絶対安静ながらも昭和二十三年の新春をすがすがしい気持で迎えさせていただきますのでございます。

そして一月も過ぎ二月の月に入りまして、何とも容体を言ってこない二番目の兄の事が心配になってまいりました。「私は信心しておかげを頂きました。兄さんも金光様とおすがりして是非助かって下さい」と一心に祈りをこめて手紙を出させていだだきました。もう兄の命は風前の灯であったのでございまして、その日から四日後の二月の十二日には、一番頼りにして

おりました、そのたった一人の兄も亡くなってしまったのでございます。

私が指宿入所の際は、第一中学校に勤務中のため鹿児島島の西駅まで元気な姿で見送ってくれましたのに、本当に夢のようでした。

それに兄の死後六日目には、父も七十三才で、中風でこの世を去って行きました。

父も三人の兄も、素直な気持で信心をしてくれていたなら、この様な悲運に見舞われずにすんでいようと、その事が悔やまれてならず、一人病床に枕をぬらす数日が続きました。

しかし後に一人残された母の事を思いますとじっとしておれなくなり、必死の思いで、立つ稽古から歩く稽古をさせていた



悦子氏の母
川畑ツネ氏

福山悦子氏

昭和三十六年

だき、暖かい四月を待つて加治木療養所に転所させていだいたのでござい

ます。母も付添いとして入所を許されまして、母も

お教会にお参りして私の事を一心にお取次を頂いてくれました。

そして迷いの夢から覚めました私も母子は、ただ一筋に神様を杖に療養をさせていただき、またたく中に一年余りを過ごさせていただきました。

そして翌年二十四年五月五日には、私は左肺の整形手術(肋骨五本を取除く大手術)を受けさせていただきました。結果は良かったのですが、四十日後に腹膜炎を併発しまして、連日四十度くらいの高熱がつづき、食物は勿論お水さえも受けつけぬ状態になったのでございます。

私の身体は日一日と衰弱して行き、医師からもさじを投げられ、私はただ死を待つばかりの有様です。しかし私はどうにか助かりたい一念です。「金光様助けて下さい」と私の心はずがり叫んでおります。母も一心にお願いしてくれました。

ちょうどその頃、祈願祭(夏の御大祭)の御通知を頂いておりました。

私は、母にお参りを頼みました。母は、お参りはさせていただきますが、今にも死にそうな私を一人置いて

ては行ききらぬという気持ちで考えて
おりましたが、やがて決心して台風
の中をお参りしてくれました。

私は苦しい中に、ふと心を感じさ
せていただきました事は「今までは
神様にお願いはかり申し上げて来た
が、今日の日まで生かされて来た二
十八年間の御礼を、ただの一度でも
申し上げて来たか」と初めて死を目
の前にして、生涯の御礼を申し上げ
る気持ちにならせていただきました。

母は嵐の中をびしょ濡れになって
帰ってまいりました。「帰ります迄は
どうか悦子が生きておりますよう
に」と「金光様、金光様」と御名を
唱えながら帰ったと申しております
た。

ところが、その日の夕刻七時頃か
ら、連日続きました四十度くらいの
熱が七度台下らせていただきました
て、夜になってソツと来て見られま
した医師も「こんな不思議な事があ
るだろうか。どう考えても解せない。
それこそ奇跡だ」と言って改めて手
を施し、以来本格的に快方に向かわ
せていただいたのでございます。

(つづ)

あしあと

加治木教会行事記録

11月

- 1 (木) ●月例祭(報徳) 10時半
" 市来家告別式
- 3 (土) 御用奉仕 10時
- 4 (日) 加治木教会 御大祭 11時
- 7 (水) 龍笛練習 20時
- 9 (金) 清掃 御用 10時
- 10 (土) ●月例祭(主祭堂光) 併せて 10時半
●月例重祭(大神様)
- 11 (日) 鹿兒島教会 御大祭・落成奉告祭 11時
- 18 (日) 西鹿兒島教会 御大祭 12時
- 20 (月) 龍笛練習 20時
- 21 (水) 清掃 御用 10時
- 22 (木) ●月例祭(天徳堂) 共励会 13時半
(乃神様)
- 23 (祝) 東郷教会 御大祭 11時
(孝正 一年祭)
- 24 (土) 大口教会 御大祭 12時
- 25 (日) 高千穂教会 60年記念大祭 11時
- 28 (水) 連合会執行部会(鹿兒島) 10時半
教会
- 30 (金) 清掃 御用 10時

訃報

市来政利氏(松田浩美氏の実父)
が、十月三十日、満八十四歳にてお
国替えされました。
霊様のご安心とお道立てをお祈り
申し上げます。

ご霊神様のおまじない

十二月

- 吉屋正憲 之霊神(2日) 平成11年
- 本中野キン 之霊神(7日) 昭和10年
- 大山キク 之霊神(7日) 平成7年
- 小屋敷シゲ 之霊神(7日) 平成8年
- 柳園市次郎 之霊神(8日) 昭和25年
- 本中野重盛 之霊神(8日) 昭和39年
- 大山叶人之霊神(14日)
- 徳永盛常 之霊神(18日) 平成2年
- 村上忠夫之霊神(20日) 昭和48年
- 大山スエケサ之霊神(24日) 昭和51年
- 大山きよ子 之霊神(28日) 昭和43年
- 吉屋キミ 之霊神(30日) 平成22年
- 前田キミ之霊神 昭和43年



「先祖の霊神様の、現世・幽冥(かくりよ)でのお働きあつての今日の私たちであります。立日の月には、故人を偲び、玉串を奉てんしてお礼を申し上げます。教会では、十日の月例祭で、霊前での玉串の奉てんを準備しています。」

十二月三日(月)

甘木親教会

生神金光大神御大祭参拝

十二月二十二日(金)十六時より

少年少女会・信徒会

歳末感謝パーティー

会費未定

昨年は四〇〇円で茶話会に縮小開催

十二月二十四日(月・祝) 午前八時出発
連合会主催 十七時帰着

熊本地震 木山仮設住宅団地にて

「移動図書館おあしす」

ひとつとべバンド演奏奉仕

※高速料金・燃料費は連合会で支給、
昼食は各自持参。御用ワゴン車二台募集。

十二月三十日(日)十三時半より

加治木教会

越年祭奉行

越年祭、御礼・お願いの記入用紙を
ご記入の上、御結界にお届け下さい。

一月一日(祝) 正午より

加治木教会

元日祭奉行

「祭典・教話後」福引。

教会行事

12月

- 1 (土) ●報徳月例祭 10時半
- 併せて 立教記念祭・新穀感謝祭
- 3 (月) ●甘木親教会御大祭
- 9 (日) 斎掃御用 10時
- 併せて 御本部布教功労者報徳祭 (参拝は未定)
- 10 (月) ●生神金光大神様 月例祭 10時半
- 12 (水) ●連布教協議会 (鹿児島教会) 10時半
- 15 (土) ●16 (日) 信徒部 教区委員会
- 21 (金) 斎掃御用 10時
- 22 (土) ●月例祭・共励会 13時半
- 併せて ●感謝パーティー 17時より
- 24 (月) 演奏奉仕 木山仮設住宅団地 8時出発
- 29 (土) 斎掃御用 10時
- 30 (日) ●越年祭 13時半

平成三十一年



1月

- 1 (祝) ●元日祭 正午
- 3 (木) 甘木親教会年頭参拝
- 7 (月) ★少年少女会「鏡開き」10時半
- 9 (水) 清掃御用 10時
- 10 (木) ●月例祭 (生神金光大神様) 10時半
- 併せて 成人感謝祭
- 21 (月) 清掃御用 10時
- 22 (火) ●月例祭・共励会 13時半
- 27 (日) 連合会定期総会 (鹿児島教会にて) 10時
- 31 (木) 清掃御用 10時

加治木教会連合会
加治木教会・加治木教会連合会

バンド演奏奉仕

12/24 (月・祝) 出発...8:00AM

仮設住宅団地演奏奉仕

熊本県 木山 仮設住宅団地にて

木山仮設住宅の子どものための合唱グループ「スマイル・ソングス」のクリスマスコンサート

監演:「移動図書館おあしす」スタッフ・前住教会賛助の形

※当日は、自家用車を乗り合わせて現地に向かいます。
7人乗りのワゴン車を貸し出すのはお申し込み下さい。

〇参加申込み...12月20日までに、加治木教会 事務局へご連絡下さい
TEL:0965-62-2895 / FAX:020-4665-5653
E-mail: koriko.m.kajiki@ks.biglobe.ne.jp

一月十一日〜二月八日
報徳祭および式年祭奉迎

寒中一斉信行

ご祈念・研修 午前五時十五分・午前十時